

四国を巡る心の旅
完全歩きお遍路
国土地理院・地図付

四国八十八箇所お遍路

2010・11・4～2014・11・11



徳島県・吉野川

長泉八十八巡礼会

はじめに

定年退職は2007年。同時に「伊豆八十八ヶ所霊場」を始めた。2年で結願し以後、エンドレスで14年巡っている。

伊豆を一巡した2009年11月から「御厨（みくりや）三十三観音」を行った。御厨は約一年かけて、2010年10月終了した。

伊豆を一巡して、二巡目に入っていたが、その中で、「四国八十八箇所」の話が持ち上がった。



伊豆を巡り、御厨が終了し、次に四国八十八箇所は、自然の流れだった。結局、四国は2010年11月から足掛け4年で結願した。

当初、お遍路は8名、ランニングが1名。お遍路の平均年齢は約65歳。最高齢は73歳、最若者は55歳。男子2名、女子6名。（第8回から女子1名参加）うち、完歩者は、男子1名、女子2名の3名。

ただ、行程次第では、全員完歩の可能性もあった。行程の工夫が足りなかったかも知れないと先達として反省している。

歩行日数は、2～3時間の歩行も含めて47日。全距離約1200kmとして、一回平均は、約26km。最大距離は、34kmだった。



四国は遠い。大人数で移動は困難で、現地まで往復は小型バス利用した。荷物の運搬負担が少なかった。また、お遍路終了地点から宿までと昼食時の足が確保されているので有難かった。ただ、バス利用は経費が掛かる。その点、D観光には大変お世話になった。

主婦が多く長く家は空けられない。往復一週間、お遍路は5日とした。季節は夏冬を避け、春秋とした。しかし、四国の春は案外遅く、鵜田（ひわた）峠で大雪に降られたことは記憶に新しい。



四国八十八箇所は、お遍路・巡礼として究極・最上級である。そこを完歩したこと、皆と一緒に歩けたことはとても満足している。

ただ中には、単独・一気・逆打ち・うるう年・番外の二十箇所加えた百八つの超ウルトラお遍路もいた。また、「お遍路乞食」と呼ばれるような方もいた。新卒でせっかく就職した会社を辞めて歩く「訳あり」の若い衆もいた。単独の女性も少なくなかった。バイク・自転車の者もいる。

皆、それぞれ、様々な「理由・事情・因縁」で四国に来た。しかし、目的は一緒。長く辛く厳しい「歩苦（あるく）」で、他では得ることを出来ないものを「具現化」したい。「修行」と呼ぶのは、おこがましく大げさかもしれない。強いて言えば、「修養」だろうか。

四国の経験を今後の人生に生かすことが出来れば幸いです。

四国八十八箇所お遍路報告書

写真・文 後藤隆徳

年月日 2010年11月4日(木)～9日(火)
回数 第一回・四国お遍路(通算歩行日数=1～4日)
参加者 後藤隆徳(長泉町・63)、高岡八千代(御殿場市・73)、土屋弥生(長泉町・68)、陶山節子(長泉町・65)、山口五月(清水町・59)、渡辺典子(三島市・55)、鈴木新平(富士市・69)、鈴木綾子(富士市・67)、陶山泰信(長泉町・お遍路でなくランニング)=8名+1名

遍路寺

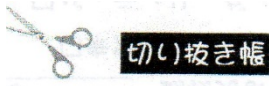
- 一番札所 霊山寺(りょうせんじ) 徳島県鳴門市大麻町板東塚鼻 126番地
ご本尊=釈迦如来 のうまくさんまんだ ぼだなん ばく
メモ=お遍路は巡拝にあたっての心がまえをお大師さまに約束(十善戒)する、いわゆる「授戒」をうけるのが本来。寺伝その他の言い伝えでは空海が弘仁6年(815年)に四国霊場を開き、札所と札所番号を定めたことになっているが、これは史実でない。四国は奈良時代から山岳信仰(後の修験道)の修行地で、空海も唐に渡る前には私度僧として修行のために故郷でもある四国で修行をしたが、唐から戻って後、特定の八十八箇所を札所として定めたことはなく、後の人々が空海ゆかりの寺々を霊場に定めたものと推定される。実在の人物としての空海は、弘仁年間には都で密教の普及に努めていた。
- 二番札所 極楽寺(ごくらくじ) 徳島県鳴門市大麻町松字ダンノ上 12番地
ご本尊=阿弥陀如来 おん あみりた ていぜい からうん
メモ=寺伝によれば、奈良時代(710年～784年)、行基の開基という。弘仁6年(815年)に空海(弘法大師)がこの地での21日間(37日)の修法で阿弥陀経を読誦したところ満願日に阿弥陀如来の姿を感得したため、その姿を刻んで本尊としたと言う。この阿弥陀如来の後光は遠く鳴門まで達し、魚が採れなくなったため、困った漁民たちが本堂の前に山を築いて光を遮ったということから「日照山」と号するとされる。
- 三番札所 金泉寺(こんせんじ) 徳島県板野郡板野町大寺 66
ご本尊=釈迦如来 のうまくさんまんだ ぼだなん ばく
メモ=寺伝によれば天平年間(729年～749年)に聖武天皇の勅願により行基が本尊を刻み、金光明寺と称したという。弘仁年間(810年～824年)に空海(弘法大師)が訪れた際に、水不足解消のため井戸を掘り、黄金井の霊水が湧出したことから寺号を金泉寺としたという。
- 四番札所 大日寺(だいにちじ) 徳島県板野郡板野町黒谷 5
ご本尊=大日如来 おん あびらうんけん ばざらだどばん
メモ=寺伝によれば空海(弘法大師)がこの地での修行中に大日如来を感得、一刀三礼して1尺8寸(約55cm)の大日如来像を刻みこれを本尊として創建し、本尊より大日寺と号したという。山号の黒巖山は、この地が三方を山に囲

まれ黒谷と呼ばれていたのが由来で、黒谷寺（くろたにでら）とも呼ばれている。

- 五番札所 地蔵寺（じぞうじ） 徳島県板野郡板野町羅漢字林東 5
ご本尊＝地蔵菩薩（延命地蔵）、胎内仏・地蔵菩薩（勝軍地蔵）
おん かかかびさんまえい そわか
メモ＝弘法大師、お手植の銀杏の巨木がある。
- 六番札所 安楽寺（あんらくじ） 徳島県板野郡上板町引野字寺ノ西北 8
ご本尊＝薬師如来 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか
メモ＝寺の宿坊に天然温泉が出る。
- 七番札所 十楽寺（じゅうらくじ） 徳島県阿波市土成町高尾字法教田 58
ご本尊＝阿弥陀如来 おん あみりた ていぜい からうん
メモ＝参籠者に出される「たらいうどん」は、この寺独特の味「たらいうどん」その名のとおり、たらいを器にした釜揚げうどん。
- 八番札所 熊谷寺（くまだにじ） 徳島県阿波市土成町土成字前田 185
ご本尊＝千手観世音菩薩 おん ばさら たらま きりく
メモ＝山門と多宝塔が立派で凄い。
- 九番札所 法輪寺（ほうりんじ） 徳島県阿波市土成町土成字田中 198-2
ご本尊＝釈迦如来（涅槃像） のうまく さんまんだ ぼだなん ぱく
メモ＝ご本尊は弘法大師が刻まれた釈迦如来涅槃像。
- 十番札所 切幡寺（きりはたじ） 徳島県阿波市市場町切幡 129
ご本尊＝千手観世音菩薩 おん ばさら たらま きりく
メモ＝本堂まで333の石段になっている。
- 十一番札所 藤井寺（ふじいでら） 徳島県吉野川市鴨島町飯尾 1525
ご本尊＝薬師如来 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか
メモ＝古いお寺である。
- 十二番札所 焼山寺（しょうさんじ） 徳島県名西郡神山町下分地中 318
ご本尊＝虚空蔵菩薩 のうぼう あきゃしゃ きやらばや おんあり
きやまり ぼり そわか
メモ＝昔から「遍路ころがし」といわれるほど険しい山の寺が、四国には6カ所あり、焼山寺もこの難所に数えられている。
- 十三番札所 大日寺（だいにちじ） 徳島県徳島市一宮町西丁 263
ご本尊＝十一面観世音菩薩 おん まか きやろにきや そわか
メモ＝弘仁6年（815）弘法大師がこの地に巡錫され「大師の森」という所で護摩修法されているとき、現在、寺のある附近から大日如来が示現し「この地は霊地なれば一字を建立すべし」と告げられた。
- 十四番札所 常楽寺（じょうらくじ） 徳島県徳島市国府町延命 606 番地
ご本尊＝弥勒菩薩 おん まいたれいや そわか
メモ＝大師が弥勒菩薩を信仰されていたことは、高野山麓にある九度山慈尊

院に本尊として安置されていることからもうかがい知れる。

- 十五番札所 国分寺（こくぶんじ） 徳島県徳島市国府町矢野 718-1
ご本尊＝薬師如来 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか
メモ＝正面に重厚な感じの二層の本堂。ありし日の大寺として面影さえうかがえる。天平13年（741）2月、聖武天皇は国ごとに最適の地を選んで明四天王護国之寺という僧寺と、法華滅罪之尼寺という寺を建立するよう命じ、いわゆる国分2寺の造営である。
 - 十六番札所 観音寺（かんのんじ） 徳島県徳島市国府町観音寺 49-2
ご本尊＝千手観世音菩薩 おん ばさら たらま きりく
メモ＝天平13年に寺は創建されたと伝えられ、聖武天皇勅願の道場であった。
 - 十七番札所 井戸寺（いどじ） 徳島県徳島市国府町井戸北屋敷
ご本尊＝七仏薬師如来 おん ころころ せんだりまとうぎ そわか
メモ＝天武天皇の勅願道場として白鳳2年（674）に開創され、そのころは妙照寺とよばれ、八町四方の広大な寺域と十二坊を有する大寺であった。本尊の七仏薬師は聖徳太子の作。脇仏の日光・月光菩薩は行基菩薩の作。
- 使用バス 清水町・D観光（ドライバー・G）



空海・・・空海（774年～835年）は、平安時代初期の僧。弘法大師（こうぼうだいし）の諡号（しごう）で知られる真言宗の開祖である。俗名は佐伯 眞魚（さえきのまお）。日本天台宗の開祖最澄と共に、日本仏教の大勢が、今日称される奈良仏教から平安仏教へと、転換していく流れの劈頭（へきとう）に位置し、中国より真言密教をもたらした。能書家としても知られ、嵯峨天皇・橘逸勢と共に三筆の1人に数えられている。

密教・・・秘密の教えを意味し、一般的に、大乘仏教の中の秘密教を指し、秘密仏教の略称ともいわれる。金剛乗、あるいは金剛一乗教、金剛乗教ともいう。かつての日本では、密教といえば空海を開祖とする真言宗のいわゆる東密や、密教を導入した天台宗での台密を指したが、インドやチベットにおける同種の仏教思想の存在が認知・紹介されるに伴い、現代ではそれらも合わせて密教と総称するようになっている。

お遍路・・・祈願の目的で、四国の弘法大師空海の霊場八十八箇所を巡り歩くことをいう。菅笠に書かれている「同行二人（どうぎょうににん）」の文字は、弘法大師と自分の2人旅であるという意味で、1人旅でも心の支えになるようにという意味がある。

発心（寺）・・・仏陀の悟り（菩提）を得ようと決意すること。『華嚴経』には「初めて発心する時は、すなわち正覚（仏陀の悟り）を成ず」とある。

十善戒・・・遍路を歩むにあたっての心構えを次のように決めている。

不殺生（殺さない）・不偷盗（ふちゅうとう、盗まない）・不邪淫（邪淫しない）・不妄語（嘘をつかない）・不綺語（お世辞をいわない）・不悪口（ふあつく、悪口をいわない）・不両舌（二枚舌をつかわない）・不慳貪（ふけんどん、欲張らない）・不瞋恚（ふしんに、怒らない）・不邪見（不正な考えをしない）

授戒・・・仏の制戒を受けること。教団にはいることを誓った出家、在家のものに、それぞれに応じた規律を師僧が授けること。

多宝塔・・・多宝如来を安置する塔。多宝仏塔ともいう。基壇上に二重の屋を構築し、最上部に相輪を設置した塔をいう。

遍路ころがし・・・八十八箇所の中でも、お遍路さんが転倒するほどの極めて危険で苦勞する遍路道を「遍路ころがし」と呼ぶ。その中でも最も危険で苦勞する道が、十一番番札所「藤井寺」から十二番番札所「焼山寺」までの道。その距離なんと13km。そして、山道は、人が二列になって歩けないほど狭く、転倒しやすい坂道。

示現・・・菩薩が、生きとし生けるものを救済するために、時と場合に応じて種々の姿で現れること。

別格、番外・・・空海（弘法大師）は四国に、四国八十八箇所のほかに数多くの足跡を残しており、それらは番外霊場として人々の信仰を集めてきた。それらの番外霊場のうち20の寺院が集まって、1968年（昭和43年）に霊場として創設されたのが四国別格二十霊場である。四国八十八箇所霊場に四国別格二十霊場を加えると百八となり、人間の百八煩惱と同じになることから「煩惱を滅するのによし」と、両霊場を合わせて参拝することを薦めている。

ご朱印・・・その昔、写経をおさめた証としてお寺よりいただいた受付印が現在の御朱印に繋がる。一般的に参拝日や寺社名などが墨書きされているものを言う。現在でも納経（写経の奉納または読経）をしないと朱印がもらえない寺院が存在するが、遅くとも江戸時代中期には、多くの社寺では少額の金銭（御布施・初穂料）を納めることで朱印がもらえるようになっていた。

五百羅漢・・・仏教で供養尊敬を受けるに値する500人の人々。第1回、第4回の仏典編集会議に集った人々がそれぞれ500人であったことから両会議の参加者をさしている。

満願・・・満願または、結願（けちがん）は、日数を定めて神仏に祈願、または修行し、その日数が満ちることをいう。神仏に祈った願いが叶うと満願成就（まんがんじょうじゅ）という。四国八十八箇所などの霊場で、すべての札所を廻ることを満願もしくは結願（けちがん）といい、すべてを廻りきると満願成就、結願成就という。

第1日目 11月4日(木・晴) 歩行=なし 距離=なし

清水町5:00-三島5:05-下土狩駅5:10-なめり駅5:15-竹沢種
苗店5:20-東名-浜名湖SA7:10~30-新名神-明石大橋11:15
~45-淡路島-鳴門大橋-一番札所・靈山寺(食事・買い物)13:10~1
5:00-別格一番・大山寺15:00~16:00-入浴「鴨の湯」-さくら
旅館17:30(泊)

さくら旅館 麻植郡鴨島町鴨島502-11 0883-24-2404

- ・9番・11番の間=鴨島駅前)一泊二食6000円
- ・トイレはウォシュレットでない ・味噌汁お替りなし ・ご飯はお替りあり
- ・食事はまあまあ ・繁華街で夜中にカラオケの音がうるさかった

いよいよ、待望久しい四国お遍路が始まった。天気は良い。一週間安定した天気が続く模様。バスは快調に飛ばし明石海峡大橋を渡り、淡路ICのSAに到着。大きな観覧車が回り、明石海峡の豪快な景色を堪能した。

バスは更に鳴門ICまで進み、程なく一番札所・靈山寺に到着。初めて見る四国八十八寺の山門は大きく立派だった。さすがに本場を感じさせる。まずは寺前の「門前一番街」の「讃岐うどん」で腹ごしらえをする。

その後、今回のグッズを調達する。すげ笠・白衣・輪袈裟・ご朱印帳・掛け軸・杖・杖カバー・さんや袋、など購入した。

ただ、この時、店にいっぺんに押し掛け、短時間で会計したこともあり、後で問題が発生した。

買い物後、宿に向かうが時間があつたので、近くの番外(寺には別格と書いてあつた)「大山寺」(おおやまじ)に向かう。寺は標高400mの山中に建つ。車で上れば問題ないが、歩くと相当大変である。



補修中の山門



番外・大山寺

しかし、バスで車道を上っていくと何と歩いている方が2名いた。時間が遅いので

宿はどうするのだろうか？山門に着いた。かなり荒れた山門で屋根にブルーシートが掛けてあった。後にネットで知ったが、現在、補修中で屋根用の銅板の寄付を募っていた。山門から長い階段を上り境内に着く。大きな銀杏の木と西国三十三観音があった。別格であったがご朱印を頂いた。

寺を辞し今日の宿、鴨島駅前の「さくら旅館」に向かう。宿の風呂が小さいので、近くの市営温泉「鴨の湯」(450円)に入る。大きくないが露天風呂を備えた温泉だった。入浴後、買い物をして旅館に入る。全体的にまあまあの旅館だった。

夕食は別室のお膳で頂いた。食後に霊山寺のショッピングで私の会計が間違っていたので皆に点検するよう伝える。結果、Yさんが1万円近く違うことが判明。明日、朝一番で店に行くことを確認した。

第2日目 11月5日(金・晴) 通算歩行日数=1日 距離=約16.5km

朝食6:00-バス発6:50-一番札所・霊山寺7:45-二番札所・極楽寺
8:00~30-三番札所・金泉寺9:05~40-四番札所・大日寺11:00~30-五百羅漢11:45~12:10-「水源」(昼)12:15~13:10-五番札所・地藏寺13:15~45-六番札所・安楽寺15:00~15-
(この間、霊山寺に戻る)-七番札所・十楽寺15:40~16:00-
「御所の湯」-さくら旅館18:00(泊)

朝一番で霊山寺に行ったが、まだ店は開いていなかった。後で来ることにし、お遍路を開始。霊山寺は昨日お参りしてあるので、二番札所・極楽寺に向かう。極楽寺まで近い。15分程で到着。赤い大きな山門が立派だった。

ご朱印を貰いに行く。この仕事は、ご朱印帳と掛け軸で30分ほど掛る。その間、皆はお勤めを行う。

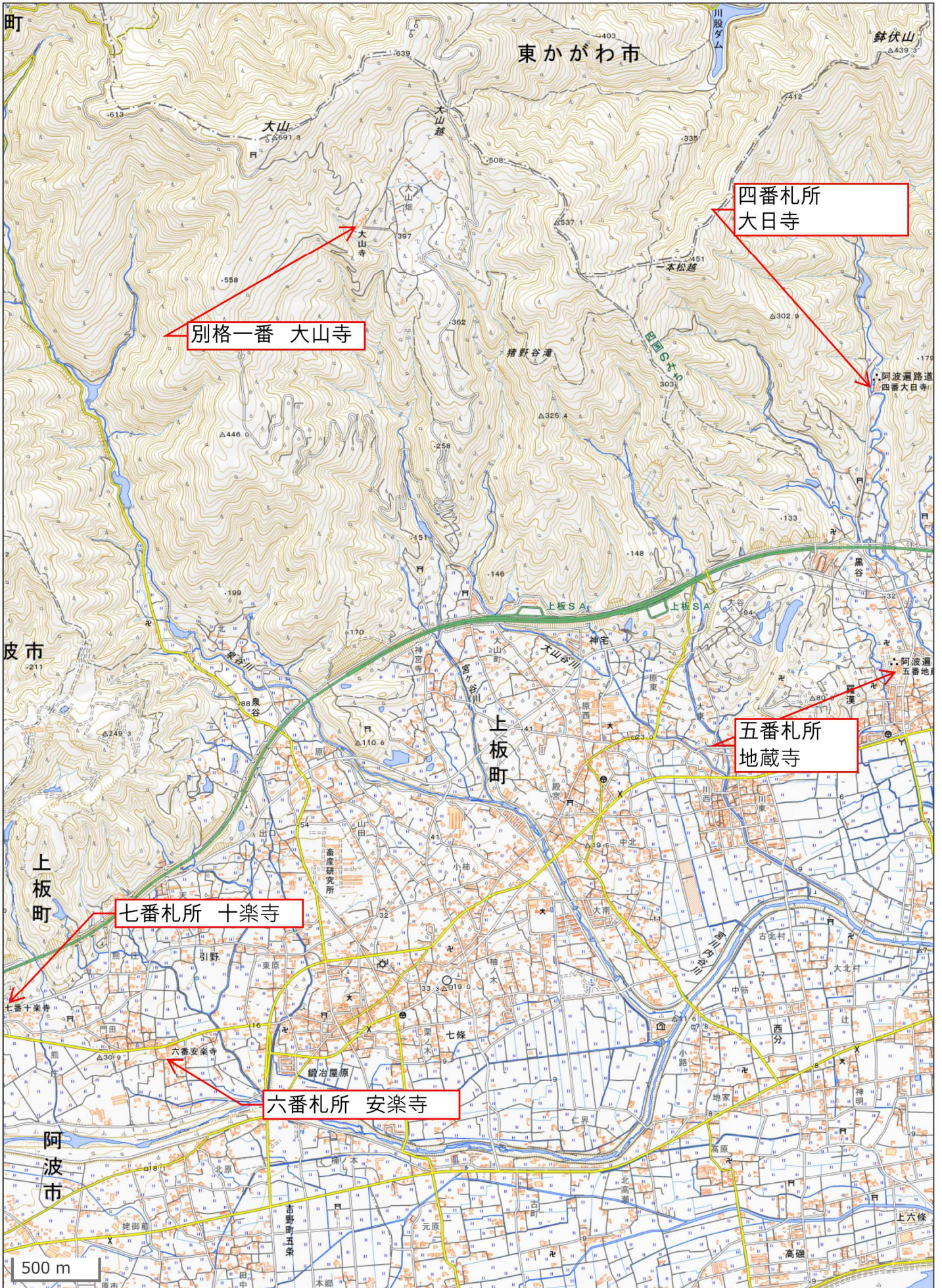


一番札所・霊山寺



地理院地図

GSI Maps



地理院地図

GSI Maps



500 m

地図 = 地理院地図使用

一番札所の
ご朱印係りさん



二番札所・極楽寺



お遍路の道標



掛け軸は、絹の布に書くので乾きが悪くドライヤーで暖気を当て乾かす。役目は先達の私が担う。

三番札所・金泉寺に向かう。遠くない。道路脇に高德線が走っていた。電車は高松～徳島を結ぶもので、通勤客で一杯だった。

寺の山門は赤い大きなものだった。ご朱印所は、何処の寺もそうだが、自動扉で広く明るく凄く立派。自動扉は先達が持ち切れないほど、ご朱印帳を持ってくることを想定したものだろう。

ご朱印係りは女性だった。時間が掛るので世間話をしたら、「伊豆八十八ヶ所霊場」の話題になった。係りの若い女性は大いに乗り気で、今度は是非訪ねたいと言った。一応、アドレスを置いて来た。



三番札所・金泉寺

立派なご朱印場



四番札所・大日寺に向かう。1時間程かかる。寺脇から案内板に従って田舎道を歩く。四国お遍路の場合、殆ど地図はいらない。完璧に近い形で道標・案内板が完備されている。田舎道は、たわわに柿が実っていた。

広大なコスモス畑が広がり、お遍路は飽きない。加えて天気はドピーカンで程良い気温。四国を歩いて回る幸せを感じる時だった。

途中、金泉寺奥の院・愛染院があった。山門に大きなワラジが立て掛けてあり、犬が日向ぼっこをしていた。更に進むとお休み処のウドン屋があり、お姉さんが「寄っていらっしやい」モードだった。生憎、ちょっと時間が早かった。

四番札所・大日寺に着いた。大きな山門を持つ立派なお寺だった。本堂に続く回廊に「西国三十三観音像」を安置してあった。

回廊に上がってゾロゾロ見て回った。五番札所・地藏寺に向かう。途中、五百羅漢があった。中に弥勒堂・釈迦堂があり、それを繋ぐように「五百羅漢」が様々な表情で佇立する。

なかなかの迫力で表情が楽しく面白い。管理人のお母さんの愛想がとても良かった。



四番札所・大日寺

寺を辞し昼食にした。バス運転手のGさんが近くの「水源」と言う店を探してくれた。サワラとイワシ料理を食べたが美味しかった。Sちゃんとビアも頂いた。

昼食後、地蔵寺に入る。境内に大きな弘法大師の像があった。大師が植えた大きな銀杏の木の下で秋の柔らかい日差しを浴び、一人のお遍路さんが休憩をしていた。その後ろ姿が丁度、境内の大師さまと重なり、美しい光景だった。

六番札所・安楽寺に着いた。入り口に四国お遍路、「五百回満願」の記念碑があった。大阪の八十四歳のFさん。昨年作ったものだ。歩き遍路で500回！！凄いものだ。何年かかったのだろうか。



美しい光景



五番札所・地蔵寺



六番札所・安楽寺

山門が竜宮城みたいな形だった。山号が「温泉山」で、宿坊に温泉が湧いているそうだ。また、ご本尊は薬師如来。本堂でよく見えるので写真を撮っていいですかと聞いたら、気軽に撮らせてくれた。

明日を考え予定外で七番札所・十楽寺に向かう。ただ、例のグッズ勘定間違いがあったので、Yさん、SYさん、私でバスに乗り霊山寺に赴いた。グッズ店に到着すると昨日の方は不在で責任者みたいなご婦人が居た。

事情を話すと快く応じてくれた。今朝も来たと話したら、お詫びの印です、と白衣を1枚くれた。

バスで再び十楽寺に向かい、皆と合流し記念写真を撮った。今日はこれで終了。風呂は、土成IC近くの「御所の湯」(600円)。綺麗でなかなか良い温泉だった。入浴後、今日も「さくら旅館」宿泊。ご苦労様でした。

歩きお遍路
五百回記念碑



七番札所・十楽寺



第3日目 11月6日(土・晴) 通算歩行日数=2日 距離=21.7km
朝食6:00-バス発6:40-七番札所・十楽寺発7:00-八番札所・熊谷寺7:50~8:30-九番札所・法輪寺8:50~9:25-十番札所・切幡寺10:40~10:10-昼食12:10~13:15-十一番札所・藤井寺14:40~15:10-「鴨の湯」16:30~17:30-さくら旅館18:00(泊)

さくら旅館は鴨島駅前夜中に近くのカラオケがうるさかった。6時に起床し朝食を済ませバスで昨日最後の十楽寺に到着し、お遍路開始。今日も天気は良い。

地理院地図

GSI Maps





多宝塔



山門



八番札所
熊谷寺

4 Kmほど離れた八番札所・熊谷寺を目指す。徳島自動車道脇を進み、昨夕入った「御所の湯」前を通過し、結構な坂道を上り下ると寺入り口があった。ひと上りで境内入口に着いた。

入口に立派な多宝塔が聳えていた。正に聳えると語るに相応しい巨大ものだった。更に上ると本堂がある。ちょっとした山寺の雰囲気だった。

寺を辞し下って行くと参道が伸び、これまた大きく立派な二階建て山門に仁王様があった。「徳島県有形文化財指定」の看板がある。本来、こちらの参道からお参りするの正しいが、歩きの場合最短コースを採用するので、逆になる時もある。

下で九州から来た女性の一人歩きお遍路さんに再会した。再会と言うのは、昨日道路ですれ違ったからだ。その時、話はしなかったがすぐ分かった。

基本的に「歩きお遍路」は絶対的に少ない。今回も4日間のお遍路で歩きの方を見

元気な女性一人
歩きお遍路さん



たのは4～5名。多くの方は大型バスで駆け抜ける。歩き遍路は「気力・体力・時間・お金」がないと出来ない。

標高約150mの熊谷寺から南下し、九番札所・法輪寺に向かう。寺は広大な畑の真ん中にあった。トイレは完璧に綺麗で自動ドア・水洗・ウォシュレットは、当たり前って感じ。やっぱり世界遺産登録を目指している四国札所は違う。

少し街中を通過する。角を曲がると聞いていた「お接待」があった。ちょっとした店みたいな所にお茶・お菓子・飴があり、座布団を敷いたベンチが置いてある。張り紙には「お遍路さん、ひとやすみなさいませ。お茶のお接待をどうぞ。無料。元気で御巡拝を！！」(原文のまま)とあった。皆で有難く頂きました。



九番札所・法輪寺

十番札所・切幡寺着。寺は標高約200mの山の上にある。長い参道を辿り、333段の階段を上らなければならない。車道もあり階段を上っていると、ブ～ブ～脇を車が上って行く。Wさんに聞いたらバスツアーは下でマイクロバスに乗り換えて上るそうだ。階段は1段1段が低いので案外楽だった。黒装束の大師さまみたいな本格的



十番札所・切幡寺

な先達(?)がいた。

寺から一直線に吉野川に下る。吉野川は大きな川だった。広大な中洲は畑になっている。昼食時間になったが、とても川向こうに行けない。ここはバス伴走の良いところで、バスを呼んで昼食を摂りに行く。バス伴走でない場合、昼食は持参したほうがよい。結局、昼食は鴨島町の回転寿司で済ましたが美味しかった。

昼食後、再び中洲に戻りお遍路再開。徳島線を越えて鴨島町に入っていく。少し先で休憩していたら、近くの喫茶店主が冷えた水を差し入れてくれた。奥様も外に出てニコニコのお接待でした。有難いことです。どこまでも温かい徳島の方でした。



吉野川・川島潜水橋を渡る



美味し水のお接待



奥様もニコニコ

鴨島町南端まで来ると前方に大きな山塊が立ちはだかる。先に十一番札所・藤井寺があり、いわゆる「遍路ころがし」と呼ばれる難路が始まる。「遍路ころがし」は今後何箇所か出てくるが、今回は最初となる。

最高地は、一本杉庵と呼ばれる場所で標高約750mを有す。標高ほぼ0mの吉野川から上る訳で、なかなか困難と言わなければならない。藤井寺に到着。割合古く地味な感じの寺だった。今日はここで終了。お風呂は「鴨の湯」に入った。



十一番札所・藤井寺



焼山寺への道標



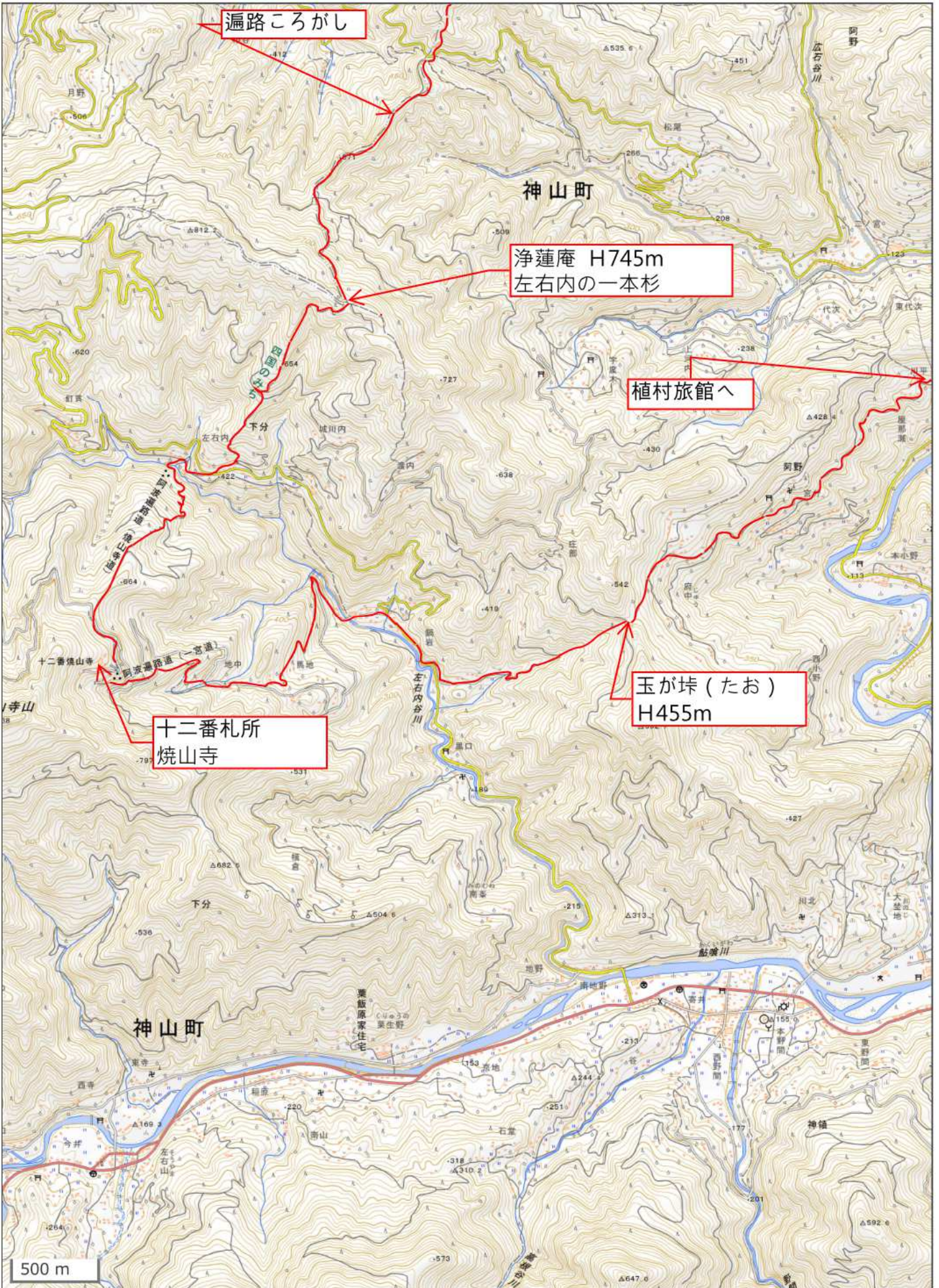
地理院地図

GSI Maps



地理院地図

GSI Maps



第4日目 11月7日(日・小雨のち晴) 通算歩行日数=3日 距離=20.9km
朝食6:00ーバス発6:25ー十一番札所・藤井寺発6:35ー長戸庵8:00ー柳水庵9:15ー一本杉庵10:10ー昼食11:30~12:00ー十二番札所・焼山寺12:30~13:00ー寺下13:30ー玉が埜(たお)ー植村旅館15:45(泊)

植村旅館 西郡神山町阿野本名=泊二食7000円 0886-78-0859

・二階の階段が急で厳しい ・食事はまあまあ ・トイレはウォシュレットでない ・家庭的な雰囲気 ・姉妹と娘経営

このところ晴天がずっと続いたが、昨夜は少し降ったようだ。今日は今回のお遍路で一番大変な「遍路ころがし」コース。土砂降りにならないことを祈った。

昨日最終の標高約40mの藤井寺からスタート。まずは、標高約626mの無名峰を目指す。本物の登山道が続く。昨日の雨で少し滑り易かったが、幸い大雨の心配はなさそうだ。雲間の阿波の風景を楽しみながら黙々と歩を進め、まずは「長戸庵」を通過する。

コースは厳しくお遍路を励ますかのような数々の「お札」が下がっていた。様々な方・団体が作って下げている。写真のものは、丹後の真言宗・吉祥院(?)の朱印が押され、裏は「一所不在」の文字と大日如来の朱印があった。



柳水庵

626m峰から一旦標高約500mの柳水庵に下る。元々、番外霊場で小さな庵と大師坐像を安置するお堂があった。

その名の通り、湧き水が豊富なところで昔、弘法大師が杖で地面を突くと水が湧き出たとの言い伝えがあり、名前の由来になっている。

最低鞍部は峠で車道が通っていた。地元ボランティアが建てた小屋がある。蒲団があり緊急の場合、宿泊出来るようだ。有難いことである。

再び標高約750mの一本杉庵に向かう。なかなか厳しい上りだった。後から空身の二人が来た。お遍路でなく遍路道をウォーキングしていると言った。



左右内の一本杉



一本杉庵



左右内集落

最後の石段を上ると一本杉庵だった。枝分かれした大きな杉と大師像が立っていた。立派なトイレも完備している。対岸には大きな山。どうやらあれが焼山寺のようだ。

しかし道はここから一気に標高約380mまで激しく下り、左右内（さうち）集落に降りる。集落は静かな佇まいだった。

川を渡り再び標高約700mの焼山寺に上る。しかし、途中で急激にペースダウン。腹が減ったのだ。気が付けば11:30だった。無理もない今日はもう5時間も歩いている。皆で登山道の脇で昼食。

今日の昼食はさくら旅館のお弁当。さくら旅館はお金を取らなかった。お遍路さんはサービスだった。しかし、と言う訳でもないがオニギリ2個とオシッコ少々ではいささか物足りない。

そんなことで私がもの欲しそうな顔をしていたのだろうか、マラソンのSさんが、コンビニのオニギリを1個恵んでくれた。サイコーに美味しかった。感謝です。

焼山寺は思ったほどキツくなかった。やっぱりオニギリのパワーだろうか。参道には檀家が寄進した大きく立派な観音像・不動明王石像がたくさん並んでいた。像を作り設置するには相当お金が掛るだろう。何百万単位ですね。



十二番札所・焼山寺

焼山寺は立派なお寺だった。境内に大きな杉が林立していた。標高が高く台風が多い四国でよく残っているものだ。見渡せば遥か谷間から山嶺にかけて、見事な紅葉が広がっていた。四国も秋たけなわだった。

ご朱印をいただき皆の所に戻って来ると、寺の係りの方が飛んで来た。問題発生かと思いきや、御影袋を忘れたので届けてくれた。しかし、帰静後、私は大失敗をしたことに気が付いた。理由は下記です。皆さんには申し訳なかった。

駐車料金を請求された時、「歩きお遍路」で来ましたと、伝えたがこの件の反応はなかった。

・・・十二番札所・焼山寺は、歩き遍路道の途中にある「番外霊場・柳水庵」と「番外霊場・一本杉庵」そして、焼山寺参道にある「杖杉庵」のご朱印を押してくれます。納経所へ行って「お願いします。」って納経帳を差し出すと、納経所の方が、汗だらけの僕の顔を見ながら「歩いてですか？」って一言。そこでいただいたのが、下のご朱印。

柳水庵・一本杉庵・杖杉庵のご朱印は、昔ながらのへんろ道を「歩いた方」だけいただけるご朱印。歩き遍路の方はせめて「納経帳」は持ってお参りください。・・・ネット

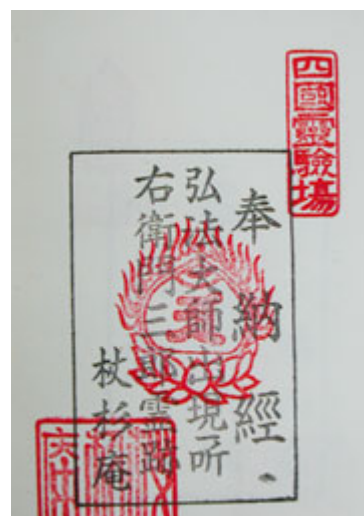
▼柳水庵のご朱印



▼浄蓮（一本杉）庵のご朱印



▼杖杉庵のご朱印



記念写真を撮って寺を辞す。下りは標高約230mまで下る。途中に有名な「衛門三郎霊跡」があった。下りは道路でなく昔の林間道を降りる。

下から「遍路ころがし」を子供に止められた方が、電車・バスを乗り継いで上って来た。我々の何人かの方は脚がへろへろになってしまい、無意識に転んでしまう危険な「ヒザが笑う」状態だった。

今日の宿の植村旅館まで、まだ2時間は掛る。しかも、また標高約500mの玉が埤（たお）を越えなければならない。宿に入る16時も迫っていた。後2時間無理な方は、断腸の思いでバスの人となった。

TO・TY・私は更に歩き続ける。玉が埤（たお）乗越しは厳しかった。峠で全員汗にまみれていた。下りも飛ばした。植村旅館に16時ちょっと前に到着。これで全員が揃ってほっと一息。

植村旅館は、旅館と言うより普通の民家で主人の姉妹と娘さん3人でやっていた。決して豪華ではないが、アットホームなイイ感じの宿だった。二階に上がり窓を開け放つと、眼下に大きな鮎喰川（あくいがわ）が流れていた。さてさて、結局今日の行程は、

上り＝藤井寺標高約40m～626m峰＝約586m

柳水庵約500m～一本杉峠約750m＝約250m

左右内約380m～焼山寺約700m＝約320m

鍋岩約230m～玉が埤約500m＝約270m

合計標高差＝約1426m

下り = 626 m 峰 ~ 柳水庵 約 500 m = 約 126 m

一本杉峠 約 750 m ~ 左右内 約 380 m = 約 370 m

焼山寺 約 700 m ~ 鍋岩 約 230 m = 約 470 m

玉が峠 約 500 m ~ 植村旅館 約 80 m = 約 420 m

合計標高差 = 約 1386 m

歩行時間は9時間。これは登山でなくて一体何でしょう？

ちなみに、丹沢大倉尾根の標高差 = 1190 m。富士山富士宮口新五合目 ~ 頂上 = 1376 m。合計をみれば今回の「遍路ころがし」がいかに大変であったか一目瞭然。バス乗車はうなずけるものでした。それでも、今日も全員無事に終了したことに感謝・多謝でした。お風呂は近くにいい湯があった。バスで行った。



玉が峠

大師と衛門三郎像



植村旅館



鮎喰川





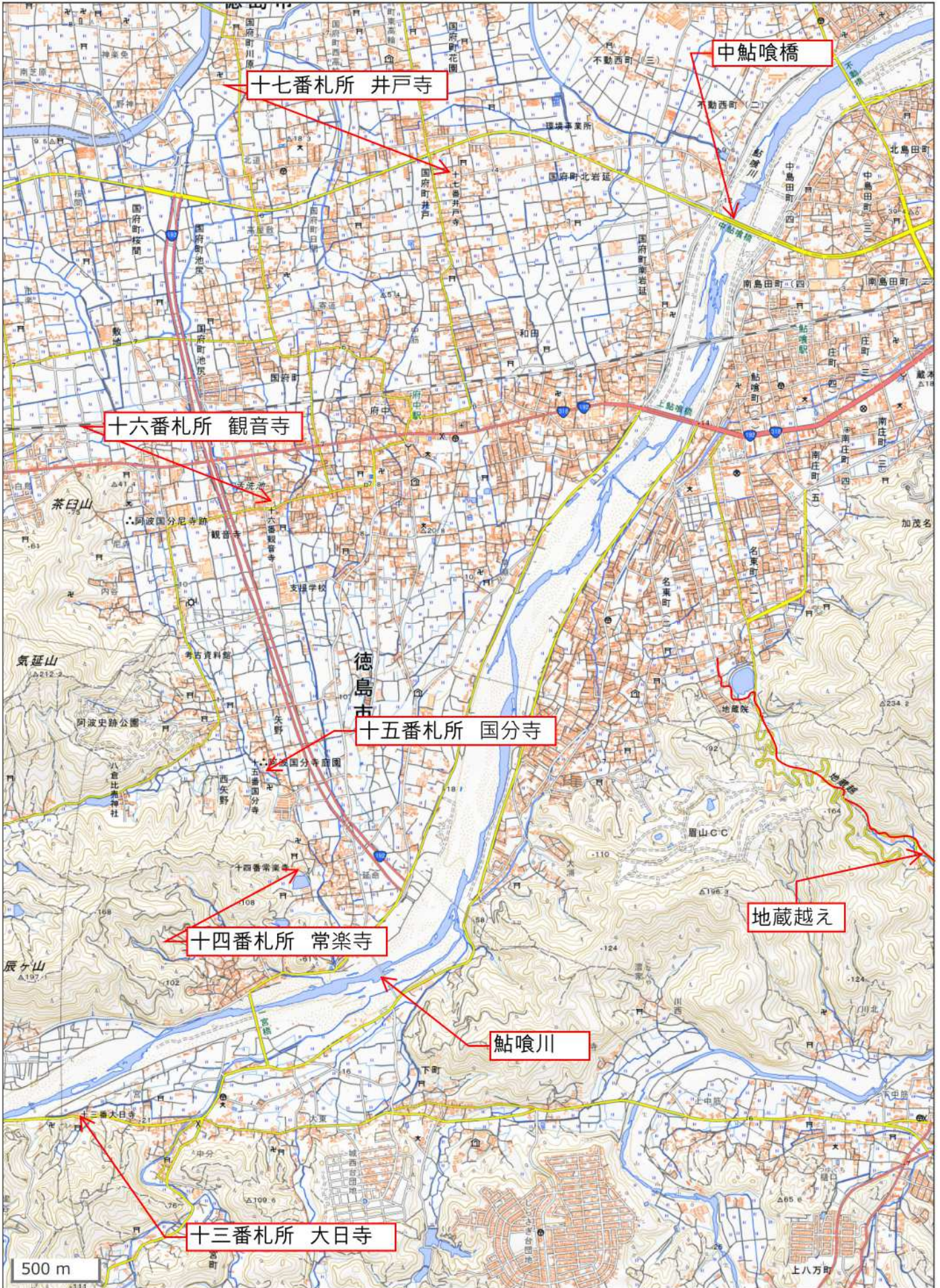
植村旅館前（前列真中がご主人）



十二番札所・焼山寺

地理院地図

GSI Maps



第5日目 11月8日(月・晴) 通算歩行日数=4日 距離=21.4km

起床5:00-植村旅館発6:45-十三番札所・大日寺9:45~10:15
-十四番札所・常楽寺10:50~11:20-十五番札所・国分寺11:35
~11:50-昼食12:05~13:10-十六番札所・観音寺13:30~
14:00-十七番札所・井戸寺14:40~15:10-中鮎喰橋15:35
-大鶴旅館16:20-新町温泉-大鶴旅館17:45(泊)

大鶴旅館 徳島県徳島市南仲之町1丁目41 088-653-0768

- ・一泊二食5000円(お遍路さんは1000円引き) ・食事はまあまあ
- ・家庭的な雰囲気 ・トイレはウォシュレットでない ・お風呂は近くの銭湯(お遍路は無料) ・近所に「瀬戸内寂聴生家」の仏具店がある

今回の巡礼も最終日になった。夕べは2階で一人寝だったので気持ち的に楽だった。やっぱり人間だから慣れない方との1週間は知らない間にストレスが溜まる。

旅館の前で記念撮影をして出発。R20を鮎喰川に沿ってドンドン下って行く。今日は上りがないので楽だ。天気は再び良くなった。



R20を下る



お遍路道標

面白人形

途中に面白人形（かかし）が沢山あった。釣りをやっている人形の背中が妙にリアルで笑ってしまった。ここは、かかしの町か？

入田市にJA眉山西部女性部・地産地消の「気に入田（いった）」の直産店があり寄った。畑を大々的にやっている、Sちゃんは地方野菜に興味津々で盛んに吟味していた。地方に来た時は、購入し地元で育てるそうだ。

しばらく行くと「徳島刑務所」があった。主に暴力団やその関係者を収監しているそうだ。少し前、担当医師の虐待疑惑があった。十三番札所・大日寺に着いた。



十三番札所・大日寺



十四番札所・常楽寺



まだ時間が早かったので参拝者は少ない。車巡礼の夫婦がいた。境内の中央に「しあわせ観音」があった。鮎喰川を一宮橋で渡り、対岸の常楽寺に向かう。寺は近かった。

寺は桜の名所のように春は多くの方が参拝に訪れるようだ。また、境内の大きな木の股に弘法大師が祀ってあった。



十五番札所・国分寺



すき家

国分寺に向かう。近い。お寺は立派だった。本堂は珍しい二層をなしていた。静岡ではない初めて見る形だった。木造でこれだけ大きなものを建造するのは、相当の技術・労力・資金を要するだろう。

お勤後、昼食とした。近くに適切な場所がなくバスで少し離れた「すき家」を選んだ。普段、ファミレスは入らない。店は初めてだったが、まあまあ美味しかった。

午後は、観音寺に向かう。近い。観音寺は住宅街にある比較的小さな寺だった。井戸寺に向かう。今回の最後の寺になる。それ程遠くなかった。田園地帯の中にある大きく立派な寺だった。

境内に近所のボランティアの年配者がたむろしていた。説明をしてくれるのだろうか？車イスの参拝者がいた。寺の名の通り境内に「井戸」がある。昔、大師が錫杖で掘った伝説がある。井戸を覗いて自身の姿を写すと御利益があるという。

皆で最後の記念写真を撮る。時間があるのでもう少し歩く。車が多いR30を進み鮎喰川を中鮎喰橋で渡り、対岸に出て堤防を南下する。鮎喰川を遡り再び徳島線をまたぎ上鮎喰橋で今回のお遍路は終わった。

バスに迎えを頼み今日の宿「大鶴旅館」に向かった。大きな宿ではないが、アットホームないい感じの宿だった。お遍路さんは宿代を1000円引きでやってくれて有難い。

お風呂はちょっと離れた「新町温泉」。バス運転手が面倒臭がったので歩いて行く。

途中に「瀬戸内寂聴の生家」があった。大きなビルで仏具店を営んでいた。寂聴グッズが沢山置いてある。店主は寂聴の姪だから、寂聴のあの特徴的な眼がそっくりで温和な感じだった。また、新町温泉はお遍路さん無料で対応してくれた。この町は、お遍路さんに温かいもてなしで溢れていた。

大鶴旅館に戻り夕食。宿には「八十八歳の大ばあさま（年齢が正にお遍路さま）」がいて、まだ現役で仕事を手伝っていた。数年前までお遍路をしていたそうだ。皆さま、大ばあさまに大きなエネルギーを頂きました。

第6日目 11月9日（火・晴） 歩行＝なし

起床5：30－出発7：00－眉山（びざん）7：15～25－鳴門－淡路島
－名古屋－静岡－長泉町17：30ころ

翌朝、時間があったので、有名な眉山に上った。風が冷たかったが展望台から徳島市が大きかった。割合早い時間に静岡着。第1回目は無事終了した。合掌。



十七番札所・井戸寺

十六番札所・観音寺





大鶴旅館夕食



大ばあさま



大鶴旅館前



徳島市内



頂上のストウーパ（パゴダ・巨大仏塔）

眉山（びざん・標高290m）頂上





切り抜き幅

仁王門・・・寺院を守護する金剛力士を安置した寺院の門。比較的初期の仏教文献に、門の左右にヤクシャ（夜叉）を配することが記され、インドにも同様の例がある。奈良時代から日本でも盛んに行われた。仁王像を左右に安置してある社寺の仏寺の守護神として、2体の金剛力士を安置する楼門。仁王を安置し日本では法隆寺西院の中門が最古例。また東大寺南大門の運慶・快慶作仁王像が最大とされる。

お接待・・・四国ではお遍路さんは大師様と同じと考えるため、お接待は「大師様への功德」という。また「自分の代わりにお参りを託す」という意味もあるため、時にはお賽銭など現金を渡されることも。道筋の小さな休憩所から、うどんやお菓子、お茶などを出してくださる接待所、ほかにも善根宿や通夜堂など。お接待にはいろいろな形がある。

先達・・・公認先達とは、「四国八十八ヶ所霊場会」に公式に認められた先達の事です。先達とは、同行二人の教えを核とする弘法大師信仰を拠りどころとして、四国を巡拝し一人でも多くの人をこの道に誘い、それらの人々の指導者として、あるいは模範として、信仰修行に勤める方です。また、道案内やその他、巡拝道や札所寺院に関わる知識を身につけ、適切な指示や助言も行う。そして、公認先達に認定されると認証として専用の巡拝用品が授与されます

衛門三郎・・・天長年間の頃の話である。伊予国を治めていた河野家の一族で、浮穴郡荏原郷（現在の愛媛県松山市恵原町・文殊院）の豪農で衛門三郎という者が居た。あるとき、三郎の門前にみすぼらしい身なりの僧が現れ、托鉢をしようとした。三郎は家人に命じて追い返した。翌日も、そしてその翌日と何度も僧は現れた。8日目、三郎は怒って僧が捧げていた鉢を竹のほうきでたたき落とし（掴んで地面に叩きつけたとする説もあり）、鉢は8つに割れてしまった。僧も姿を消した。実はこの僧は弘法大師であった。

三郎には8人の子がいたが、その時から毎年1人ずつ子が亡くなり、8年目に、皆亡くなってしまった。悲しみに打ちひしがれていた三郎の枕元に大師が現れ、三郎はやっと僧が大師であったことに気がつき、何と恐ろしいことをしてしまったのだと後悔する。

三郎は懺悔の気持ちから、田畑を売り払い、家人たちに分け与え、妻とも別れ、大師を追い求めて四国巡礼の旅に出る。二十回巡礼を重ねたが出会えず、大師に何としても巡り合い気持ちから、今度は逆に回ることにして、巡礼の途中、阿波国の焼山寺の近くの杖杉庵で病に倒れてしまう。

錫杖・・・遊行僧が携帯する道具（比丘十八物）の一つである杖。梵語ではカッカラといい、有声杖、鳴杖、智杖、徳杖、金錫ともいう。